

花王・コミュニティミュージアム・プログラム 2012
<継続 3 年目助成>
助成対象プロジェクトの概要と推薦理由

助成番号 12-3-1

プロジェクト名 博物館を街角へ “区民ができる博物館
支援とは”
 団体名 特定非営利活動法人 すぎなみムーサ
 代表者名 石田金次郎
 設立年 2010 年
 助成額 50 万円
 拠点ミュージアム名 杉並区立郷土博物館（東京）



この団体は、杉並区が開催した区民講座の受講生が講座終了後の2010年に組織化したNPO法人で、杉並区立郷土博物館を拠点に、区民の目線で親しまれる博物館づくりへの貢献を目指している。

これまでの助成により、杉並区の職人を対象とした調査研究に取り組み、その成果を自主展示や地元小学校における特別授業などを通じて発表してきた。この間の取り組みが評価され、拠点ミュージアムで区民参加型展示を行うことのできる団体として認められ、実際の展示にもこぎつけた。また活動を通じてネットワークも広がってきた。

3年目の助成では博物館支援強化プロジェクトに取り組み、地域住民への博物館の認知向上や利用者の増加を目指し、住民による博物館支援を主題とした「区民参加型展示」の実施や、区民センターや空き店舗におけるミニ展示会などを通じた「街角博物館構想」の試行にチャレンジする。

ミュージアムから外に出て地域の人々に伝えようとする意欲的な取り組みであり、どのような展示や案内方法になるのか、その工夫や効果に期待する。

助成番号 12-3-2

プロジェクト名 横須賀市追浜地区歴史と産業のフィールド
ミュージアム構想
 団体名 特定非営利活動法人 アクションおっぱま
 代表者名 昌子住江
 設立年 2004 年
 助成額 35 万円
 拠点ミュージアム名 横須賀市自然・人文博物館（神奈川）



この団体は、神奈川県横須賀市追浜地区に関係する市民・企業・行政などと連携をはかり、近代の歴史遺産である東京湾第三海堡遺構の保存活動などを通じてまちづくりに取り組んでいる。

これまでの助成により、東京湾第三海堡遺構見学の冊子作成とそれを活用した見学会を実施し、街歩き用に地域資源を集めた絵地図を作成して配布するなど、具体的なツールを開発することで、より多くの人に楽しみながら地域を再発見してもらう活動を行うことができた。また、横須賀市自然・人文博物館と協力し、サテライトミュージアムの検討も

行ってきた。

助成3年目では、点在する地域資源をつなぐ市民による「追浜フィールドミュージアム」計画の策定を目指し、「講演会」「報告書」「シンポジウム」などを通じて市民の認知と関心を高める。また「見学ルート案」を作成し、今後市民が実際にマップなどを片手に楽しみながら歩き学ぶための具体的な準備にも取り掛かる計画である。

本プロジェクトは、NPOがミュージアムと協力して取り組むまちづくり活動であり、特に同地域では大規模マンションの開発により新規住民が増加しており、新しいまちづくりの一つの材料としてタイムリーな取り組みでもある。今後、地域住民が気軽に参加できる内容に発展することを期待している。

助成番号 12-3-3

プロジェクト名	火焰街道博学連携プロジェクト —10周年報告書作成事業—
団体名	火焰街道博学連携推進研究会
代表者名	藤岡達也
設立年	2002年
助成額	25万円
拠点ミュージアム名	新潟県立歴史博物館（新潟）



この団体は、地域の博物館と小学校が連携し、信濃川中流域に広がる縄文文化を核とした教育プロジェクトを通じて、郷土を愛し郷土の文化を大切に子どもたちの育成を目指している。

プロジェクトは、子どもたちが自ら設定した課題について調査・研究し、成果を発表しながら地域間交流をはかる活動からなり、例えば2011年度は、3校の小学校が信濃川流域の5館の博物館の学芸員の協力を得て、博物館を使った体験学習やシンポジウムや展示会、交流会などを行い、うち地域間交流をはかる機会でもあるフォーラムには、146名の児童が参加した。ボランティアの参加も進み、教育関係の大学院生には実践の機会も提供できた。

3年目助成では、連携プロジェクト10年の節目にもあたることから、これまでの実践の成果を広く伝えるために報告書を取りまとめる。博学連携による教育活動のあり方や体験学習のノウハウなど、現場で携わる教師や学芸員にとっても大変貴重な報告となるであろう。また複数のミュージアムと複数の学校が連携する実践は希少ということなので、教育現場への博物館活用のモデルとなつて普及につながることも期待している。

助成番号 12-3-4

プロジェクト名	となみヤングパワープロジェクト ～高校生による美術館の企画展支援事業～
団体名	特定非営利活動法人 F-site
代表者名	稲林忠雄
設立年	2004年
助成額	50万円
拠点ミュージアム名	砺波市美術館（富山）



この団体は、富山県内の様々な分野のクリエイターが中心となり、文化・スポーツなどの表現活動をサポートするとともに、青少年育成や国際交流、芸術文化振興などを通じて地域社会の発展を図ることを目的としている。

これまでの助成では、本団体が拠点ミュージアムと地元の県立高校のコーディネート役となって関係性を築いてきた。1年目には美術館で行われる展示会のCMを制作し、地元のケーブルテレビなどでも放映された。これらの活動を通じて高校生が徐々に主体的に取り組むようになり、2年目には企画展の立案から実施までを、高校生たちが連携して実施するところまで展開してきている。

助成3年目では連携の定着化を目指し、参加者の拡大にも意識して取り組み、美術館の企画展のテーマに基づく朗読劇等の制作・上演や、その広報（新聞、CATV放送）を行うとともに、一連の活動をまとめて報告パンフレットを作成し、他の美術館等へも配布することで波及を目指す。

一般的にミュージアムへの高校生の来館者数は少なく、彼らが主体となる活動を展開している点は希少で非常にユニークである。モデル事例として全国発信を期待している。

助成番号 12-3-5

プロジェクト名	文化を通じた電車と沿線の学生たちの心の交流…活動10年の検証と発表
団体名	石坂線21駅の顔づくりグループ
代表者名	福井美知子
設立年	2002年
助成額	25万円
拠点ミュージアム名	大津市歴史博物館、大津市立長等創作展示館 （三橋節子美術館）（滋賀）



この団体は、市民の生活に密着した公共交通を舞台に、文化の発信や地域・世代間の交流を図る楽しいまちづくりに取り組んでいる。駅に掲示板を設置して沿線の学校の学生の写真や絵などの発表の場としたりするとともに、全国から「電車と青春 21文字のメッセージ」を募集して、入賞作品をまとめた冊子を刊行したり、電車内の掲示や車体ラッピングとして発表するなどして、地域の社会資本である公共交通としての石坂線をコミュニティのプラットフォームにしようと活動している。

助成3年目では、「沿線高校生写真プロジェクト」の成果を大津市歴史博物館主催の「大津まちなか大写真展」として発表するとともに、今年が本グループの活動開始10年目の節

目となることから、これまでの活動の「成果発表会」を行い新たなステージへの展開を目指す。

本プロジェクトは地元密着型のユニークな文化活動であり、また活動の枠組みもミュージアムと協力することにより拡大し、さらに協力者も増えるなど、地域に浸透しつつある点が評価できる。今後の展開を期待している。

助成番号 12-3-6

プロジェクト名	「もっと、光を」ドキドキ少年撮影隊 ミュージアム編 Part3/活動から繋がりへ
団体名	特定非営利活動法人 和歌山芸術文化支援協会
代表者名	井上 節子
設立年	2001年
助成額	50万円
拠点ミュージアム名	和歌山県立近代美術館（和歌山）



この団体は、市民の立場から芸術と文化の発展に寄与する活動に取り組んでいる。

1年目の助成では、団体が継続して行ってきた子どもの体験型プログラム『「もっと、光を」ドキドキ少年撮影隊』の舞台を新たに和歌山県立近代美術館とし、アーティストの協力も得て、カメラを通して美術館の展覧会出品作品を見つめ、そこから新たに作品を作る体験をすることで、自己表現を目指した。2年目では「かぶるカメラ（アナログピンホールカメラ）」の作成を通じてカメラの原理を学ぶとともに、和歌山市と中辺路町の子どもの交流を行った。

3年目助成では、プログラムの対象を自由参加の小学生から中学校との連携に発展させ、カメラと写真のワークショップを行い、インスタレーションを美術館で発表する。さらには、3年間の助成による一連の活動を取りまとめた記録集を作成・配布することで、経験を公開し普及を目指している。

拠点ミュージアムとの連携はよくとれており、2年間の実績がミュージアムと学校の授業の連携に展開した点は評価される。NPOがミュージアムと学校をつなぎ、地域の子どもの心豊かに育てる活動として、ミュージアムとの連携の定着とさらなる展開を期待するとともに、報告書を通じて多くの現場で活躍する関係者へ広く伝わることを期待する。